

日韓高校生の違い(気づきメモ、感想)

1. 生活時間の違いと徴兵制

韓国高校生	日本高校生
～17:00? 授業など	～16:00 授業など
17:00～21:00? 強制自習（校内）	16:00～18:00? 部活動など
21:00～ 塾	
25:00? 帰宅	19:00? 帰宅
* 徴兵義務（2年間）	

2. 討論の中で

- 日本では頭の良い人が大学進学をめざす 韓国では頭が悪くても大学へ行かないと就職できない
- 韓国では、教師の体罰は認められ、生徒も仕方がないと納得している
日本では、先生がひどいことを言うと、「うるさい」と言い返す生徒がいる
- 韓国では、2年間は軍隊に入ることが義務で、拒否できない
日本の自衛隊は希望で入隊するが、海外出兵の動きがある

3. 韓国高校生の感想

- ㉔ この日はものすごく寒かったが、申さんの証言はその寒ささえ忘れるような気がした。あなた達にはわからない。あの時の惨めだった状況を・・・と涙を流すのを見て、胸が痛くなった。本当にその通りだ。私達は楽な時代に生まれて、自分のこと以外は関心を持っていない。今の社会の土台になった人々や自分の国の歴史である強制連行に何の関心もなく、ここまで来ているのか。高くて堅いコンクリートのダムを見て、空しさを感じ、涙が出た。そして思った。こんな活動をする人がもうちょっと多くなったら良い。こんなつらい歴史を繰り返してはいけない
- ㉕ 日本の方が朴さんのお墓を長年管理してくださっていることに、心から感謝したい。国レベルでは色々壁があるが、友達として心が通じるのは素晴らしい。自分たちがもっと交流を深めていきたい
- ㉖ 植民地時代の話はするけど、楨村浩のように抵抗して虐殺された人がいること、当時韓国人と日本人の間に交流があったことは、知らなかった。こういった事実を、正確に伝えていくのは大切だと思う

4. 日本高校生の感想

- ㉗ 韓国生は初対面の私に、まるでいつも会っている友達のように腕を組んで話しかけてくれました友達同士でも、腕を組んだり手をつないで歩いたりしないのに、韓国生はとても積極的にしてくれました。腕を組んでいるということは、友達として思ってくれているのだと感じました
- ㉘ 外国に行くと、「自分は日本人なんだ」ということを改めて自覚させられる。距離的に日本と近い韓国でも、それは同じだった。生活の違いや言語の違いなどの文化的相違点を発見するのはとても楽しいが、受けてきた教育などの違いを感じた時、「笑ってばかりもいられないな」と思ってしまった。韓国の高校生が教わる歴史と、日本の高校生が教わる歴史は違う。あたりまえのことだが、私がこれを感じ

た時(韓国の人が「日本はこんな悪いことをした」という時)、自分がしたわけではないのに申し訳ないような気になる

④ これからグローバル化が進む中で、私は一人の人間として、日本人として、過去に日本が行ってきた悲惨な行為やその真実を、広い目で知っておくべきだと強く感じました。私たちはすごく良いきっかけと、この行事を作り上げてくれた先生方、関係者の方々に、感謝の気持ちでいっぱいです。私もそんな素敵な大人になりたいです

5. 韓国教員の感想

①韓国高校生は勉強意欲が高く、自分の意見をしっかりと主張できる長所がある。しかし、反日教育の歪みも見え、日本人とフランクに話し、仲良くなることなど不可能と考えている生徒が多い。しかし、日本へ来て幡多ゼミと交流したり、津賀ダム平和祈念碑や柏島の朴二東さんの墓参を経験、地域の人たちから朝鮮人無縁墓を大事に守ってきたことなどを聞くと、氷が溶けるように理解してくれる

②日本の高校生が、韓国と日本の不幸な歴史を克服するために活動しているという事実に私は感動した。その当時、私の悩みは歴史教師としてどうすれば、教え子を民族主義の鎖から自由にできるかということだった。だが、教師のどんな説明も、高校生の認識を変化させるには限界があり、そのような時に知った幡多ゼミの活動に新鮮な衝撃を受けた。日本人が自らの過去を振り返る姿を韓国の高校生が見た時、その認識は大きく変化したと考えた。

このように始まった延べ9回の交流は期待以上の大きな成果を上げた。特に、朴二東さんや津賀ダム犠牲者の調査は、日本帝国主義の非人道的な歴史に対する生きた学習になったし、幡多ゼミの活動は日本人に対する偏見を正すのに大きな役割を果たした。また、これからの韓国と日本との関係をどうすればいいのかという、現実的な悩みが始まる機会にもなった。

6. 日本教員の感想

③一般的に日本の高校生は時事問題に関心が薄く、日本と韓国の現代史に関する基礎的な知識も少ない。そのため、設定されたテーマについて今まで考えたことがないし、討論にも慣れていない。一方、韓国の高校生には教科書どおりの主張や柔軟性のなさを感じるが、自分なりに意見を述べ、積極的に討論に参加する姿勢ができています。お互いの違いに刺激を受けることが多く、日本の高校生には自分自身を振り返る機会にもなった。

④韓国の高校生が最も感動したのは、幡多の自然の豊かさである。四万十川の澄んだ水、夜の闇の深さ、柏島の海の輝き、漁船から見た海と陸、釣り上げた魚の手ごたえなど、初めてふれる自然がたくさんあった。柏島への移動中に見た野性猿には驚き、大歓声を上げていた。

⑤教員にとっても得るものが多かった。関係した地域の人々との出会いが、この交流をより社会的・教育的に高め、今後の国際交流活動の新しい流れをつくりだす力となった。日本の教員は「韓国の高校生の学びへのハングリー精神」に驚き、韓国の教員は「教育における自主活動の大切さ」に深い関心を示した。

⑥教育の目的は未来を築く力を育てることであり、青年が自らの生き方を切り開く総合的能力を育てていくことだと思う。目標を見失いがちな日本の高校生と、加熱する受験競争に埋没しがちな韓国の高校生たちが、共通した現代史の発掘・調査を通じて「ともに学び、ともに歩む」ことの大切さを知りあった貴重な交流を、未来を見つめ、今後とも大切にしていきたい。